



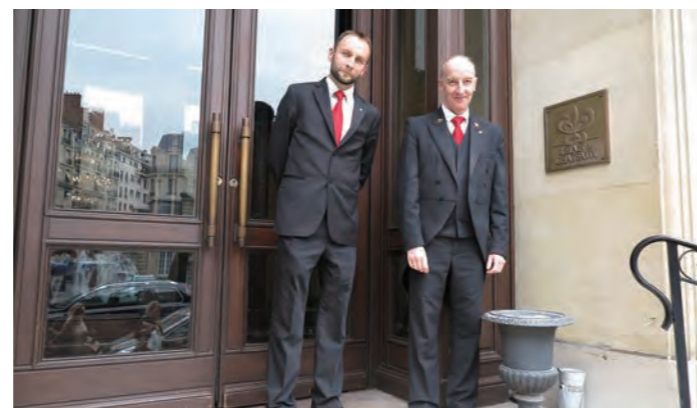
「Saint James Paris」は、ブローニュの森にほど近く優雅な邸宅が立ち並ぶ16区の高級住宅街にある。重厚な外門から敷地に入ると、正面に美しい噴水と花壇が目が行き、やがてネオクラシック様式の館が厳かに姿を現す



吹き抜けのエントランスホールにあるステアケースはホテルの顔でもあり、その荘厳な佇まいは圧巻で思わず溜息が出るくらいだ。「デザイン界の偉大な貴婦人」と呼ばれたブットマンは、サンローラン、ヴァレンシアガの店舗、NYのモーガンズホテルなど多岐にわたり活躍したが、1987年にサンジェームスを手掛けている



サンジェームスはパリ市内で唯一、門構えのあるシャトーホテルで、パリ市内に在りながら喧騒とは無縁の都会のオアシスだ



ホテル正面エントランスでゲストを迎えるスタッフ。Relais & Chateauxのパリにおける旗艦ホテルでもある



筆者 小原 康裕  
 ホテルジャーナリスト  
 慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)  
 現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



フランスを代表するインテリア・デザイナーのアンドレ・ブットマン女史が手掛けたエントランスホール



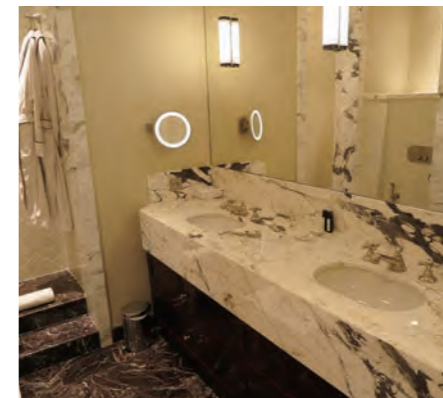
客室はすべて違ったスタイルで、室内は官能的なデザイン構成だ



上層階にある「Suite」の一つで、フェミニンな雰囲気を持つベッドルーム



ゆったりとした「Suite」のリビングルーム。窓から中庭を望める



機能的で、使い勝手の良いバスルーム

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立ての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

*Saint James Paris*

パリで最も幅の広い美しい大通り、凱旋門から続くアヴニュー・フォッシュ。ここは、ロスチャイルドやオナシスが館を構え、優雅な邸宅が立ち並ぶ16区の高級住宅街だ。そんな大通りから一步入った通りに「Saint James Paris」が控えめに建っている。サンジェームスはパリ市内で唯一、門構えのあるシャトーホテルだ。重厚な外門から敷地に入ると、正面に美しい噴水と花壇が目が行





ミシュラン1ツ星を維持するメインダイニング「The Restaurant」は優雅な館にふさわしい華麗な内装と雰囲気を持つ。ヘッドシェフの Patrick Charvet 氏が腕を振るい、独創的な料理でゲストの舌を感動させている



レストランスタッフが筆者を出迎えてくれた。中央の女性は GM の L. Pertusier 女史



ガーデン側席のエレガントなテーブルセッティング



優雅な時間が流れるメインダイニングのディナー風景



木々が生い茂る緑豊かな中庭。陽気の良い季節はガーデン席が人気である



メインバー「The Library-Bar」はかつての図書室を改装して造られたバーで、総革装丁の古書と英国調家具をしつらえた空間は鉛色の輝きを放っている



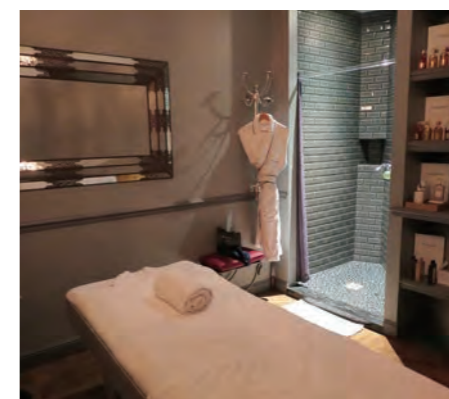
多忙な日々から逃れ、愛読書を片手にライブラリーで憩うのも一興だ



ネオクラシック様式の美しい正面ファサード



館内奥に設けた優美な曲線の螺旋階段。熱気球飛行場の跡地ということで、熱気球の絵が描かれている



スパ施設「The Guerlain Spa」は小規模ながら高い技術と評価を得ている

き、やがてネオクラシック様式の館が厳かに姿を現す。もともとは19世紀末に誕生したサロンで、パリにおける名門会員制クラブを経て近年ホテルに転用された。吹き抜けのエントランスホールにあるステアケースはホテルの顔でもあり、その荘厳な佇まいは圧巻で思わず溜息が出るくらいだ。

サンジェームスは、熱気球飛行場の跡地にアドルフ・ティエール元フランス大統領の夫人が1892年に設立した、ティエール財団のシャトーを前身に持つ。クラシカルな邸宅は当時のパリの優秀な奨学生のためのサロンとして役割を果たしたが、1991年にサンジェルマンにある「Relais Christine」を所有していたバートランド・ファミリーが物件を取得してホテルビジネスを開始した。建物はオリジナルの内装を手掛けた巨匠アンドレ・プットマン女史に代わり、2011年に同じく女性インテリアデザイナーのパンビ・スローンによって全面改装され現在に至っている。

サンジェームスはスイートを含め、全49室を持つ邸宅ホテルである。客室はすべて違ったスタイルで、室内は官能的なデザイン構成だ。筆者にアサインされた部屋は上層階にある「Suite」の一つで、中庭を望むフェミニンな雰囲気の部屋だ。ミシュラン1ツ星を維持するメインダイニング「The Restaurant」は優雅な館にふさわしい華麗な内装と雰囲気を持つ。ヘッドシェフの Patrick Charvet 氏が腕を振るい、独創的な料理でゲストの舌を感動させている。メインバー「The Library-Bar」はかつての図書室を改装して造られたバーで、総革装丁の古書と英国調家具をしつらえた空間は鉛色の輝きを放っている。スパ施設「The Guerlain Spa」は小規模ながら高い技術と評価を得ている。

サンジェームスは、Relais & Chateaux のパリにおける旗艦ホテルで、ブローニュの森は徒歩圏内という理想的な立地だ。パリ市内に在りながら喧騒とは無縁の都会のオアシスであり、大人のハイダウェイと言える。多忙な日々から逃れ、愛読書を片手にライブラリーで憩い、ミシュランのダイニングで美食の時間を満喫できる魅力的なホテルだ。この麗しの館は、まさに大人の風格を漂わせている。